



カトリック長崎大司教区 広報委員会
〒852-8114 長崎市橋口町1-1
長崎大司教館内
Tel. 095-843-3869
Fax 095-842-4460
振替口座 01880-5-2699
発行人 山田良秋
印刷所 株式会社 インテックス

祈りの意向
・教皇
・日本
スポーツが、国家間や異文化間の平和、出会い、対話の道具となり、尊厳、連帯、個人の成長といった価値を高めるものとなるように。教皇レオ14世のために祈ります。教会に与えられた牧者が、神の恵みに満たされて、教会と世界の善のために奉仕できるように。

初の邦人司教任命から来年で100周年
長崎教区の歩みたどって

長崎大司教区は、初の邦人司教が任命されてから来年2027年で100周年を迎える。1865年3月17日の「信徒発見」以来、長崎の教会はパリ外国宣教会の宣教師たちに導かれてきた。しかし、同会は「新布教地を開拓してその国の邦人司教を養成し、彼等に引渡すことを目的としていた」(1977年『旅する教会—長崎邦人司教区創設50年史』)。それから60余年後の1927年7月16日、早坂久之助師が初の邦人司教に任命された。第5代教区長に1年後に控え、少しずつ長崎教区の歩みを知り、学び、つないでいく機会となることを願い、邦人司教区となって25年、50年、80年のときの関連する記事を見ていきたい。(広報)



初の邦人司教・ヤヌワリオ早坂久之助司教

最初の邦人司教

「長崎教区は」1927年7月16日、日本最初の邦人司教となつてパリ外国宣教会の手を離れるとともに、福岡、佐賀、熊本、宮崎、大分の5県を新設の福岡教区に委譲して長崎県だけが管轄となった。初代邦人司教に早坂久之助師が任命され、同年10月30日、日本人として初めて司教に叙階された(カトリック中央協議会発行「カトベ

ディア2004)。

1927年に邦人司教区となった長崎教区は、本紙「カトリック教報」によると、1977年と2007年に邦人司教区「創設」あるいは「設立」として50周年と80周年を祝っている。1952年の25周年のときは、早坂司教が司教叙階銀祝を迎えることについて、教皇庁から駐日教皇大使を通じて山口愛次郎司教あて祝電が届いた記事が報じられていた。教皇ピオ12世

のお心が伝えられた祝電は次のような言葉だった。

聖父は最初の邦人司教ヤヌワリオ早坂台下の司教叙階二十五周年に当り、衷心より祝意を表し日本の司教ならびに聖職者一同の上に天主の豊なる聖寵を祈求せられ特別の教皇祝福を下され給う

一九五二年十月十四日
聖職総代理 モンテニ
(1952年11月1日付
「カトリック教報」)

早坂司教はこのときすでに引退していたが、銀祝を記念する司教ミサが同年10月26日(日)午前9時、大浦天主堂で行われた。1952年11月1日付「カトリック教報」には「山口司教様を始め各司祭、修道者、信者たちが堂を満たし、教区神学生たちが聖歌をうたつた」とあり、信者たちが喜び集つてともに祝つた様子がうかがえる。

旅する教会

1977年12月8日(木)「長崎邦人司教区創設50周年」の記念行事が開催され、浦上教会でミサ、カトリックセンターのホールで式典、同レストランで祝賀会が行われた。また、今も長崎教区のご家庭では1冊お持ちかもしれないが、記念誌『旅する教会—長崎邦人司教区創設50年史』の発行もこの日である。

式典では、教皇パウロ6世からのメッセージが松永久次郎師(当時、被選司教。翌78年2月5日に長崎教区初の補佐司教となる)によって朗読されている。そして、里脇浅次郎大司教(のちに枢機卿)はあいさつの中で次のように述べている。

…この邦人司教区創設は、パリ外国宣教会の神父様方の信徒発見、教育、司祭養成の涙ぐましい働きの結果である。

NPT再検討会議の開催にあたって

核兵器のない世界のためのパートナーシップが声明

4月27日から5月22日にかけてニューヨーク国連本部で開催の核兵器不拡散条約(NPT)再検討会議。これに合わせ、「核兵器のない世界のためのパートナーシップ」は4月27日、「第11回再検討会議の開催にあたっての声明」を発表し、公式ウェブサイトで公開した。

同パートナーシップは、サンタフェ、シアトル、広島、長崎の日本4つの教区が核軍縮に取り組むため、2023年8月9日に設立。現在もこの連帯への呼びかけを広く続けていて、長崎教区においてもすべての信者に活動の目的を周知し、理解を深めてもらうと働きかけている途上だ。

4教区5人の司教が署名しているこの声明文の冒頭では、同パートナーシップが核兵器の保有そのものが非道徳的である」と宣言された教皇フランシスコの歩みに従うものであり、教皇レオ14世の導きにも支えられている、と述べている。

また、1970年の発効から56年間にわたり核兵器不拡散条約が重要な役割を果たしてきた一方で条約が崩壊の危機に瀕している状況にあること、核兵器の保有が「核抑止」になるといふ考え方がいまだ存在していること、今回の会議が真に核軍縮への実現につながるものとなるよう願ひ祈る、としている。

希望をもって進もう

80周年となる2007年、本紙1月号年頭教書の中で、高見三司教は「日本とくに長崎は、迫害の終る頃から信仰を自由にするための戦い、その戦いを通して60余年の間、パリ外国宣教会の神父さま方が大変お世話になりました。彼らはさまざまに困難の中で文字通り身を粉にして日本の教会の基礎をつくってくさいました。(中略)今年、日本人司教区として独立した恵みと意義をもう一度考えると同時に、その基礎を築いてくださったパリ外国宣教会の神父さま方に感謝の意を表したいと思ひます」と示した。この年は各地でミサや講演会、教区主催の式典、宣教師たちの写真展やその故郷を訪ねる旅などを通して記念した。

100周年を迎えることを機に一度長崎教区の歩みをたどって、旅する教会の続きをもっと希望をもって進んでいきたい。(万)



中央協議会「カトベディア2004」、長崎大司教区「旅する教会」をもとにまとめました。

# 2027年8月にWYDソウル大会

2〜3年に一度、各地で開催されているワールドユースデー(WYD)世界大会が、今回は2027年8月に韓国ソウルで開催される。テーマは「勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている(ヨハネ16:33)」。

WYDについては、「カトリック教会情報ハンドブック」(カトリック中央協議会発行)に次の通り記されている。「1984年、あがないの特別聖年に、聖ヨハネ・パウロ2世教皇は、大十字架(380cm)を聖ペトロ大聖堂の祭壇脇に設置し、それを『主イエスの人類への愛のしるし』と



▲ <https://wydseoul.org/>  
▼大会ロゴ



1985年に始まったWYD世界大会。アジアでの開催は1995年のマニラ大会以来、日本の教会からも多くの若者がソウルを訪れることが期待されている。日本巡礼団の募集に関しては2025年10月時点から未定のままとなっているが、具体的な内容が決まり次第、各教区において情報公開される予定。長崎教区青少年委員長の川端志範神父は、「2027WYDソウル大会に参加に向けて、現在教区青少年委員会では、日本の教会の青年担当者とともに準備を進めておりま



ソウル大司教区司教座聖堂の明洞教会近くの通りに掲げられていたWYDの看板(2026年3月撮影)

## 2025年度臨時司教総会

日本カトリック司教協議会は、2月16日(月)から20日(金)まで東京・日本カトリック会館で2025年度臨時司教総会を開いた。司教16人が出席し、日本カトリック管区長協議会と日本女子修道会総長管区長会の代表4人も参加した。

### 主な報告事項

▼第2回「司祭生涯養成プログラムA」開催予定  
「日本の教会における司祭生涯養成プログラム」に基づき、2回目となる「司祭生涯養成プログラムA」を2027年1月に開催する予定とし、実行委員会準備を始めたことが司祭・終身助祭生涯養成委員会委員長のエドガル・ガクタン司教(仙台教区)から報告された。

▼南海トラフ巨大地震対応覚書  
「南海トラフ巨大地震発生時における被災教区の支援体制構築のためのカトリック中央協議会による初動支援についての覚書」がカリタスジャパンの成井大介責任司教(新潟教区)から報告された。

### 主な審議事項

▼「復活のろうそくの祝福の祈り」の試用  
「復活のろうそくの祝福の祈り」の3年間の試用を承認。試用版をカトリック中央協議会のウェブサイトで公開する。

▼社会司教委員会系諸委員会の今後の方向性  
2026年4月から、社会司教委員会のもとにあつた全てのセクション(正義と平和協議会、難民移住移動者委員会、部落差別人権委員会、子どもと女性の権利擁護部門、HIV/AIDS部門)を統合して、一つの委員

会を設立し、その名称を「いのち・平和・人権委員会」とすることを承認。  
②「いのち・平和・人権委員会」の委員長として森山信三司教(大分教区)を選任。  
③教区担当者の任命依頼をしてきた社会司教委員会系諸委員会・諸部門は、その任命を終了し、2026年4月より発足する「いのち・平和・人権委員会」の教区担当者を各教区に依頼することを承認。

▼「外国籍信徒司牧部門」の名称変更  
現在の「外国籍信徒司牧部門」について、その活動の実態と使命をより的確に表すために、「多文化共生司牧部門」へ変更することを承認。

▼2026年度特別臨時司教総会開催  
2026年度定例司教総会と臨時司教総会との間に以下の日程で特別臨時司教総会を行うことを承認。2026年9月30日(水)9時〜10月1日(木)正午。

▼2026年度カトリック中央協議会収支予算書  
案承認。2026年度(定)カトリック中央協議会収支予算を承認。

▼「復活のろうそくの祝福の祈り」の試用  
「復活のろうそくの祝福の祈り」の3年間の試用を承認。試用版をカトリック中央協議会のウェブサイトで公開する。

▼社会司教委員会系諸委員会の今後の方向性  
2026年4月から、社会司教委員会のもとにあつた全てのセクション(正義と平和協議会、難民移住移動者委員会、部落差別人権委員会、子どもと女性の権利擁護部門、HIV/AIDS部門)を統合して、一つの委員

## 青年のための巡礼ウォーク

in 佐々木

5月4日(月)から5日(火)にかけて教区召命委員会が主催する「青年のための巡礼ウォーク」が行われた。毎年ゴールデンウィークに行われているこの行事は、今年は佐



世保地区佐々木教会を会場に行われ、青年の参加者が17人、スタッフを含め、総勢30人ほどが共にウォーキングを行った。



1日目は軽めのウォーキング。横浦教会から佐々木教会までの道のりを歩いた。前日の大雨の影響もなく天候に恵まれ、良きウォーキング日和であった。夕食時には思いがけず輪投げ大会が始まり、大いに盛り上がり互いの交流を深めた。2日目は佐々木教会から浅子教会までウォーキング。平本義和神父(佐々木教会主任)のコーディネートで国

道ではなく山道を歩き、少々疲れたものの皆無事に完歩。浅子教会でも歓迎いただき、有意義な2日間となった。今回参加したこの若者たちが今後ますます教会で活躍すること、また司祭・修道者の召命にも目を向けていただけることを願いたい。  
(召命委員会)

訂正とお詫び  
本紙2026年5月号の記事に誤りがありました。訂正いたします。

2面、2026年3月1日付中町教会広報「地の塩」からの転載記事「別れの時」：最後の一文の2文字「水達」は「永遠」の誤りです。正しくは次の通りです。「ましてや人生での別れを迎えるようなことがあれば、それは永遠の幸せにつながるようになります。」

3面「長崎大司教区現勢統計表」：出津小教区の世帯数について「84」としていましたが、正しくは「184」です。

ご迷惑をおかけしてまことに申し訳ございません。深くお詫びいたします。  
広報委員会

核なき世界基金  
被爆地からのチャレンジ  
みんなでいのちと地球を守ろう!  
<https://nuclear-free.net/>

ハマチ・タイ養殖、アジ・イワシ加工、中型旋網  
**エテルナ・ワコー(株)**  
代表取締役 ドミニコ 溝口悦雄  
〒858-0926 佐世保市大湯町511番地3  
TEL(0956)47-4380

相続登記はお済みですか  
土地・建物・会社・法人の登記手続 相続手続  
遺言書の作成 相続土地の国庫帰属手続 など  
まずは、お電話を!!  
**司法書士 行政書士 山下 緑 事務所**  
ミカエル 山下 緑  
〒854-0014 諫早市東小路町10-21 電話 0957-22-6177

株式会社サンフロード・ロさま麺工場  
長崎市西出津町2528-1  
TEL(0959)23-0610  
FAX(0959)23-0611  
右記URLからご注文できます

世界平和へ祈りを…  
**明治石材**  
業務内容  
お墓建立  
納骨堂販売  
お墓のリフォーム  
霊名彫刻  
長崎本店 長崎市長栄町13-1  
大村店 大村市赤佐古町287番地  
HP <http://meijisekizai.shopinfo.jp>  
電話 (095)846-3598  
電話 (0957)50-3008

白蟻調査無料・駆除予防工事5ヶ年保証付  
白蟻防除施工士  
**大田白蟻研究所**  
代表者 大島和彦  
(〒850-0811) 長崎市矢の平1丁目14番15号  
電話 095-822-8436  
FAX 095-822-8488

主の平安  
株式会社 五島式典社(齋場) 五島中央会館 奈留会館  
代表取締役 ヨゼフ 浦 昭  
24時間営業  
五島市上津町1385番地1 TEL(0959)74-5551  
FAX(0959)74-5552  
五島市奈留町浦1899-1 TEL(0959)64-3101  
FAX(0959)64-3102

昨年2025聖年のとき、広報委員会に2つの著作が寄せられた。一つは、40年以上にわたる看護師としての経験から伝えたことをまとめた、酒井孝子さん(86)の『いのち美しきものー若い世代へのメッセージ』。もう一つは、自身のルーツを調べていく中でゆかりある司祭について分かったことを周りに人たちに知らせたいと形にした、近藤司さん(44)の『道のさなか 中田藤太郎神父様を想う』。著者であるお二人が、これまでどのような歩みかと思いがあってこれらの本をつくったのか、ご自身のことを中心に、それぞれ伺ったお話を読者の皆様に紹介したい。

(広報)

## 酒井孝子さん(さくらの里聖家族教会信徒)

### 命の素晴らしさを伝え続けて



#### 看護学生ときの体験とカトリック教会への導き

看護学生だった酒井さんは、18歳のとき、遺体解剖の助手として突然呼ばれた。心臓、腎臓、肝臓と、医師が取り出した臓器をはかりに載せ、重さをノートに記録することが役目だった。この衝撃的な経験から、命の素晴らしさと肉体の神秘を強く感じ、「この命はどこから来てどこへ行くのだろう」と思い、友人でもあったカトリック信徒の先輩に教会を紹介してもらい、「創造主」について教えてもらうことに。学生として学び、病院の仕事しながらカトリックの勉強を続け、23歳のとき大浦天主堂で中島政利神父から洗礼を受けた。仏教の家庭で生まれ育ち、「母と一緒にいつも祈っていた」という酒井さんだったが、姉もすでに受洗している、家族から反対の声はなかった。

#### フォコラーレとの出会い

その後、神戸の看護学校でさらに学び、そこで福音宣教を意識する出会いがあったが、再び長

崎に帰ったときに「キリスト信者として社会の中で福音をどう生きたらよいのだろうか」と、祈り求める日々が続く。そんな矢先、勤め先の病院近くにあった女子パウロ会の書店で、シスターから「フォコラーレの創立者キアラ・ルービック氏の本を紹介された。読み進めるうちに生きる力が湧いてくるのを感じ、加えて、フォコラーレとの出会いもあって、夫とともにフォコラーレとの交流が始まった。

1989年、山梨県富士吉田市で開催されたフォコラーレ主催のマリアポリ(集い)に長崎から一人参加。世代も職業も異なる人々が心を開き、一致する姿を目の当たりにし、驚きと同時に感動を覚えた。91年イタリアに行く機会があり、機内でキアラ氏宛てに「長崎にフォコラーレを開いてほしい」と願う手紙をしたためた。ちょうど一人の司祭が島本大司教に話を通していた後で、じきに女子フォコラーレセンターが、数年後に男子センターが長崎市内に開かれた。次第にフォコラーレの精神に共鳴する仲間たちが少しずつ増えていきました」と酒井さん。やがて長崎でもマリアポリが行われるようになった。

#### 命の教育に関わって

少しさかのぼって1988年、医療現場で命と向き合い看

#### 若い世代の人たちへ

酒井さんが心がけていること。「教皇ヨハネ・パウロ2世は1985年世界青年の日に向けて、若者たちにメッセージを出されました。それは、『若い皆さんは真理の感覚を持っていると言えるでしょう。真理は自由のために使わなければならない。また本当の自由とは、自分の自由を真に善なるもののために用いることです。この世の間違った方向へと向けさせようとする世界のいつわりから、自身を守り、責任ある行動が大切です』というものです。若い世代の人たちに、私も同じように伝えたいと思います」

#### 神様の愛のはからい

昨年9月に発行した著書『いのち美しきもの』は、もともと親族への遺稿にと考えていたが、あるシスターの勧めで1冊の本としてまとめるに至った。酒井さんはその後、病のため翌10月に入院。手術を経て、12月に退院した。体調管理には気を配っていたが、病による痛み、苦しみを味わった。「なぜですかと思いました。でも、イエス様の苦しみに委ねますって祈りました。本当に、私は十字架に呼ばれた、これで良かった、と思いました。信仰とはイエス様と共に生きることだと、これ(病)は神様の愛のはからいなのだと、今はそのように感じています。十字架のイエス様に少しでも近づきたいができた、今は喜んでいきます」



#### いのち美しきものー若い世代へのメッセージ

著者 酒井孝子 / 表紙・挿絵 中川洋一 / 制作 聖母の騎士社  
2025年9月8日発行。看護師としての経験から若い世代の人々に伝えたいメッセージを、過去の執筆文書を中心にまとめた1冊。B5判。本文82頁。

## 近藤司さん(平戸教会信徒)

### 中田藤太郎神父様を想いながら



#### 浦上の復興を支えた司祭

2025聖年と被爆80年の節目を迎えた昨年、『道のさなか 中田藤太郎神父様を想う』という1冊の本が発行された。著者である近藤司さんにとって中田藤太郎神父は祖父の叔父にあたる人物だ。1910年平戸市生まれ、36年3月19日早坂久之助司教により長崎教区司祭として大浦天主堂で司祭叙階。原爆投下後の浦上教会で主任司祭を務め、浦上の復興を支えた。のちにフランシスコ会へ移籍し、57年莊嚴誓願。各地で司牧し、季刊誌『聖火』を発刊して編集長を長年務めるなどした。99年11月13日、聖フランシスコ病院で帰天。本の表紙には、被爆した旧浦上天主堂の前に立つ中田神父の写真(下段)。ページをめくると、「発刊に際して」中田家のファミリーヒストリーに続き、「生涯」「追悼」「回顧」「説教」そして「藤太郎神父をたどりて」と、多くの方からの寄稿文や中田神父が生前に記した文章などが写真とともに丁寧にまとめられている。

下した翌日(文脈から12月上旬とみられる)、悲惨な廃墟と化した浦上天主堂跡に、私を案内しました。「神父さん!ここがあなたの新しい任地です」と、いとも簡単に申し渡された時、石橋を叩いても渡らない人、と定評のあった守山師に私は驚き、戸惑いました。人問題で苦しんでおられた師の顔を見て、今はやるだけやってみるしかないかと腹をきめ、大浦司教館から浦上天主堂の廃墟へと毎日の通勤が始まったのです」

多くの信者を亡くした浦上の地で、復興への一歩を踏み出した中田神父の当時の心境がうかがえる。



#### 道のさなか 中田藤太郎神父様を想う

著者 近藤司 / 発行 聖母の騎士社  
2025年10月25日発行。著者とゆかりのある中田藤太郎神父についてまとめた1冊。A4判。本文200頁。税別2000円。

#### ルーツをたどり記録を形に

近藤家が「トウタロウシムサマ」と親しく呼んでいた中田藤太郎神父は、平戸訪問の折には必ず近藤家を訪れていた。71歳年が違わず近藤さんは、幼い頃はシムサマのミサごたえをし、高校3年の冬にはシムサマの訃報に接し見送った。より深く知るようになったきっかけは、12年前の結婚時にさかのぼる。妻・香織さんはカトリックの勉強をし、洗礼を受けた。

「普通だったら(カトリックの)勉強も結婚講座もないのだと思いますが、その時に、ではなぜ僕はカトリックなのかなぜ妻にカトリックになつてもらわなきゃいけないのかと考えました。じゃあ、僕のルーツをたどらなきゃいけないって思ったんです」

#### 誰かの希望に

中田神父が最期まで大切に持っていた「ぼろぼろになった手紙」がある。北浦和教会にいた頃、匿名の中学2年生からもらったものだ。毎日教会に10円が入った鼻紙の包みが置かれていた。手紙には「自分の家は裕福ではないが、今自分は幸せだから、自分よりも貧しい人のためにお金を寄付したい。これが誰かの役に立つものとなれば」という内容が書かれていた。これが中田神父様の宣教の目的だったのではないだろうか。誰もが「誰かの希望になる」存在であり、「誰かの希望になりなさい」と。そういう気持ちで大事なんだと、一番伝えたいのだと思います」

本のタイトル『道のさなか』は、「あなたがたも月であり、星である」という中田神父の言葉から、近藤さんがつけた。「主へと続く道をお互いが月のように星のように足元を照らし合いたい、たわり合って進もう。私たちはその道のさなかでもともに歩みを進めてい」と、互いが希望の存在であってほしいとの中田神父の思いが込められている。

#### 本を発行して5カ月

本の発行後、地元・平戸教会の協力により、小教区の全戸への本の配布やアンケートの実施の他、昨年のクリスマス会では子どもたちに向けて中田神父について話をする機会があった。また、同教会には巡礼者や観光者のために手作りのしおりが置かれている。「平和と救いは他人からくるものではなく、自分から始めるものです」という中田神父の言葉を記したしおりも「手に取ってもらい、知ってもらえることができたらいいな」という地道なことが大きな力になっている。本を発行して5カ月が過ぎますが、伝え続けるためには拠点となる場所や活動は必要だと感じます」

#### 忘れないうてほしい

「たくさんの方に、お話しや資料、写真などの情報をいただき、ご協力をいただきました」と近藤さん。協力者の中には数年前に亡くなった浦上教会の被爆者の方もいる。「とにかく熱心にいろいろと教えていただきました。中田藤太郎神父様のご存知でした。人が亡くなると、(歴史の)記憶はなくなっていくので、だからこそ残さなければいけない。教会のためにみんなが働いていた中で、中田藤太郎という神父様がいたことも忘れないうてほしいです」

近藤さんは「本を作るのが目的ではなく、この内容を皆さんに知ってもらえることが目標です」と話す。

### 宣教していく決意新たに

#### 奈留小教区設立100周年

4月29日(水)薫風の候、あいまいさのじんだ空の下、奈留小教区は小教区設立100周年記念式典の日を迎えた。

中村倫明大司教様、出身司祭、歴代主任司祭、下五島地区司祭団、地区評議会、来賓、信徒の皆様、



総勢約120人とともに記念ミサを通して先人たちが感謝をささげ、また祝賀会を通して懐かしい顔との久方ぶりの出会いに、そしてお互いの思い出し、確かにこの小教区の100周年を築き上げてきたことを喜び合った。

人数的には小さい小教区である。だが、その信仰は人数によってあらわされるものではない。奈留小教区信徒は皆で、これから新たに宣教していく決意をした。どうなればゴールなのかは分からないが、いつかの未来に、それが届くことを信じて。

(奈留小教区)

### 浜脇教会が巡回教会に

#### 新たな出発へ感謝のミサ



な出発をする感謝のミサを、浜脇教会にゆかりのある主任司祭と下五島地区司祭団とでささげた。

歴代主任司祭の一人で、当日出席がなかった岩村知彦師桐教会主任は、「年月が経過したと実感した」とかみしめるように話し、それでも楽しかった時代を振り返ってくださった。

説教を務めた福江教会助任司祭の洪燦基師は、当日の福音朗読「エマオで弟子に現れる」イエスを引き合いに、「イエス様はこれまでずっとこの教会とともに歩んでくださいましたし、これからも歩んでくださいます」とミサの会衆を励ました。

### 第146回クルシリヨ

#### 緊張感の中にもスケ

5月3日(日)夕方、6日(水)夕方まで長崎市・お告げの MARIA 修道会本部を会場に第146回クルシリヨが開催され、16小教区から33〜80歳までの男性8人(うち2人は神父様)女性16人の合計24人が参加しました。

緊張感の中にもスケジュールが進むにつれ、参加者はクルシリヨでの体験とバランカ(霊的花束)などの力をいただき、聖霊の恵みに満たされ、神の愛を次第に受け止めている様子でした。

丸3日間を経てこれからは第4の日を過ごしていくわけですが、クルシリヨ体験でキリストの愛に共に生かされている実感をかみしめながら、それぞれが置かれた場所で花を咲かせていくことでしょう。

### トマス 大川好洋神父

#### (神言修道会)



4月3日、入所先の介護医療院で逝去。64歳。1961年新上五島町生まれ。福江教会出身。

84年初誓願、89年終生誓願。90年3月31日、名古屋・南山教会で司祭叙階。同年オーストラリア管区に移籍。93年帰国(日本管区へ)、アールルド小神学院指導司祭。94年長崎南山中学・高等学校教諭。2019年能代教会主任、能代カトリック子ども園園長(秋田)。22年長浦小教区管理者(愛知)で司祭叙階。72年趨町(聖イグナチオ)教会助任、76年山口助任・主任代行・主任、2005年徳山、下松教会の担当、07年趨町主任、12年津和野、益田主任、14年職町主任、18年日本二十六聖人記念館館長、21年職町教会で司牧、22年防府主任、23年山口助任、26年1月からロヨラハウスへ。

誰とでも親しく語り、温かな人柄で多くの人に愛された。91年に山口サビエル記念聖堂が焼失した時は主任司祭として再建に取り組んだ。また、モンテッソリー教育の普及に尽力した。二十六聖人記念館館長を務めていた2019年、本紙1月号の記事の中で殉教者について触れ、「山口と津和野で長く働いた者として私は、日本の教会が多額の苦勞と犠牲の上に現代に至ったことを、この西坂の地で強く感じています」と語っていた。

### ドメニコ・グイタリ神父

#### (イエズス会)



4月5日、老衰のため東京のロヨラハウスで逝去。88歳。1937年イタリア、ラヴェリーノ生まれ。58年入会。64年来日。70年3月14日、東京・関口教会で受洗。1956年初誓願、65年終生誓願。

初誓願後は長崎、浦和、川内、名古屋の各修道院で炊事を担当した。温かな人柄で芯が強く誠実で努力家でもあり、それが仕事のやり方に表れていた。

1974年にときわ荘が開設されると職員として調理場に勤務し、77年から44年間を恵の丘修道院で奉仕した。炊事の合

### 津和野

### 乙女峠まつりに参加して

#### 全国から多くの巡礼者集う

5月3日(日)山村憲一主任神父を団長に浦上教会巡礼団総勢41人は「乙女峠まつり」に参加するため、早朝5時に大型バスで浦上教会を出発した。昨年は別の流配地への巡礼のため、浦上教会から団体が津和野を訪れるのは2年ぶりである。



今年最高齢89歳の平野勇神父も元気に参加され、ほかに純心聖母会、お告げの MARIA 修道会、イエズス聖心侍女会のシスター、計10人も参加された。津和野までは高速道路を急いで片道5時間程度、車内では先祖が津和野に流された純心聖母会の深堀シスターに「長崎開港から、信徒発見、浦上の潜伏組織、浦上四番崩れから流配、浦上天主堂や十字架山の歴史等々、浦上の信仰のお話を分かりやすくお話ししていただいた。今年も浦上からは四番崩れの流配者の心を支えた「信徒発見の MARIA 像」(レプリカ)も参加、「津和野教会の MARIA 像」と並んで聖母行列は出発した。

乙女峠に到着後、津和野教会の山根敏身神父より歓迎の言葉があり、やはりここに浦上の人たちがいないと寂しいですと

### 平和を求める心で一つに

#### 広島・長崎の宗教者 祈り、学び

4月16、17の両日、第39回広島・長崎宗教者平和会議が長崎で開催された。これは、広島県宗教者連盟と長崎県宗教者懇話会(会長・中村倫明大司教)が毎年相互に訪問し、交流している行事です。本年は、広島からの7人を含めて約30人が参加しました。

初日は、平和公園(原爆落下中心地)で原爆殉難者への献花と世界平和を願う祈りから始まり、平和祈念像の前でも祈り、代表者たちは、鈴木史朗長崎市長を表敬訪問しました。

翌17日、浦上教会主任司祭・山村憲一神父から教会の歴史について話を伺い、「希望の聖カタリ」の鐘が響く中、中村倫明大司教の司式で平和への祈りがささげられました。

地からの願いについて、ともに学ぶ機会を得ました。宗教の枠を超えて平和を求める心によって、わたしたちが一つになれることを実感しました。人間は、命に寄り添うことも、破壊する側に立つこともできます。世界は紛争などによって分断されようとしています。核兵器がもたらす悲劇はその瞬間だけでなく、今も継続していることをわたくしたちは知っています。ともに住まう地球の命を守り、平和への道をともに歩むものでありたいと切に願う時となりました。



続いて大司教館において、「長崎県被爆者手帳友の会」の朝長万左衛門(写真)から昨年のアメリカ訪問を含め、被爆

#### 瀬戸高志 (レナンブートル会、愛宕教会主任)

### 新刊良書

#### ★心の温泉 神様と永遠に生きる

著者 アンドレア・レンボ 全信者の目的、憧れ、そしてカトリック教会の教えの最重要な「永遠のいのち」とは何かを、学術的・体系的・抽象的な概念ではなく、わたしたちの現実の生活と結びつい



者は東京大司教区補佐司教。女子パウロ会、税別1600円。

### 短信

4月19日(日)西町教会で堅信式ミサが行われ、中学生13人、大人2人の計15人が堅信の恵みを受けた。

#### 7月号は 休刊いたします